

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital

News



独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース

No.66

令和元年12月

このニュースは、年4回、
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは
地域医療連携室までお寄せください。



目次

地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ 2
- ・ 講演会のご案内 2

病院のトピックス

- ・ 第67回 おおさか健康セミナー開催報告 3
- ・ 第68回 おおさか健康セミナー開催報告 5
- ・ リボンスハウスで「涙活」してきました 7
- ・ 脳卒中市民公開講座
「知ってはる?脳卒中!~ならへんためにどうするん?
なってもたらだないする?~」 8
- ・ がん相談支援センターのご案内 13

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

地域医療連携室 令和元年12月発行 66号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <https://osaka.hosp.go.jp>

[E-mail] 408-comonh@mail.hosp.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
2019/11/1	皮膚科医師	吉田 裕梨	採用
2019/11/1	内科専攻医	河本 佐季	産休復帰

退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
2019/11/17	整形外科医師	松岡由希子	産休
2019/11/30	循環器内科専攻医	松村未紀子	退職

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
令和2年2月 8日(土) 15:00～17:30	第49回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：緩和ケア内科	医師及び 医療従事者
令和2年2月22日(土) 14:00～16:30	第69回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：肝胆膵外科・消化器内科	一般市民

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅⑩号出口すぐ

問合せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

第67回 おおさか健康セミナー開催報告

国立病院機構 大阪医療センター 下部消化管外科 科長 加藤 健志

第67回おおさか健康セミナーを、2019年8月24日午後2時から大阪医療センター災害医療棟3階の講堂で開催致しました。今回は『大腸がんを知る』と題して、消化器内科と消化器外科で担当致しました。

第一部は消化器内科の岩崎哲也医師から「大腸がんの診断」について講演させていただきました。大腸がんは全てのがんの中で日本人では死亡数の第1位で、女性では3位、男性では第2位です。現在も軽度ではありますが増加傾向です。大腸がんはがんが出来た部位により結腸がんと直腸がんに分かれます。進行度をステージで表し0期からIV期までであり、IVになると5年生存率は20%以下と低くなり、生存期間を上げるには早期発見が重要です。診断方法は内視鏡検査で病変の広がりを見る検査にCT検査やMRI検査やPET検査があります。検査を受けるきっかけは血便や便秘、腹痛などの症状がある場合と、症状がなく検診で精密検査が必要であった場合がありますが、症状がある場合は進行したがんが多く発見されるので、症状のない検診の段階でがんを発見することが重要です。

第二部は消化器内科の赤坂智史医師から「大腸内視鏡治療の最近の話題」について講演させていただきました。大腸腫瘍に対する内視鏡治療はこの15年大きく進歩しており、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）について、特に当院の特徴であるunderwater methodについて紹介させていただきました。underwater methodでESDを行うと、水による浮力、屈折力、低温性を利用して、より安全かつ迅速に実施することが可能となります。また腺腫に対して最近行っているcold polypectomyは出血や穿孔の合併症が少なく、症例によっては有用であることについて紹介させていただきました。

第三部では下部消化管外科の三宅正和医師から「最新の大腸癌に対する手術療法」について講演させていただきました。大腸癌の手術療法もこの15

年で大きく進歩しています。従来の腹腔鏡手術はもとより、最近では一つの創から手術するTANKO手術も行っております。また直腸がんに対しては肛門側から内視鏡を用いた新しい手技について紹介させていただきました。また当科には全国から直腸癌の局所再発症例が紹介されておりますが、局所再発に対する腹腔鏡手術の手技についてもご供覧いただきました。当院の下部消化管外科は4名のスタッフですがすべて日本内視鏡外科学会の技術認定医であり、国内でも屈指の腹腔鏡施設であることを紹介させていただきました。

第四部では下部消化管外科の三代雅明先生から最新の大腸癌に対する化学療法について紹介させていただきました。この分野もこの15年で大変進歩致しました。現在の標準療法から、遺伝子異常のスクリーニングを用いた、大腸癌に対するPrecision Medicineについて紹介させていただきました。また直腸癌の術前に実施している化学放射線療法に免疫チェックポイント阻害剤を併用する治療の有用性については、全国3施設の医師主導治験実施中ではありますが、ほぼ全例で病理学的緩解が得られ、今後永久人工肛門が不要にな

る時代の到来が予感されることも紹介させていただきました。

今回紹介させていただきました大腸癌に対する治療は近年大変な進歩を遂げてきましたが、ますます今後も発展することが予想されます。

当日で参加いただきました地域の先生方に感謝申し上げます。

最後に本セミナーの企画、運営に協力していただいた職員の皆様、そしてご参加いただいた皆様に深謝申し上げます。



第68回 おおさか健康セミナー開催報告

国立病院機構 大阪医療センター 耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

第68回 おおさか健康セミナーを耳鼻咽喉科を中心に下記の次第で行いました。

単に「難聴」と言うだけではあまり興味を惹かないと思いましたが、今回は高齢者の方、またはご家族に高齢者がいらっしゃる方々に非常に興味を惹く「認知症」を絡めて『認知症と難聴について』というメインテーマで行いましたところ、おかげさまで、院外127名、院内1名の合計128名と大変多くのご参加をいただくことができました。

日時：令和元年10月26日（土）
14：00～16：30

メインテーマ 『認知症と難聴について』

開会の挨拶 耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

【司会】耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

○講演1 「難聴は認知症のリスク」大阪警察病院
脳神経内科 部長 橋川一雄

○講演2 「難聴を治療して認知症にならないように」耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

○講演3 「耳鼻科で受ける『補聴器療法』のすすめ」
国家公務員共済組合連合会 大手前病院
言語聴覚士 前山啓充先生

閉会の挨拶 耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

2年前に有名な医学雑誌であるランセットに“Dementia prevention, intervention, and care” Gill Livingston, et. al. Lancet 2017; 390: 2673-734 という論文が発表されました。ランセットの論文であるということと認知症に関する研究であるということもあり、日経新聞でも大きく取り上げられました。この論文では認知症のリスクファクターに関して解析しており、「認知症の35%は予防可能な後天的な要因であり、最大の要因は難聴（9%）である」と報告しています。つまり難聴に対して対策を行うことで9%の認知症を予防できる可能性があるということです。

というわけで、まずは認知症に関して、当院の脳卒中内科の科長でいらっしゃいましたが3月に退職され、現在は大阪警察病院の脳神経内科部長



でおられる橋川先生を招聘して、橋川先生に認知症の概要を解説していただきました。

続きまして私から耳の解剖と生理を解説して、手術で治る難聴「伝音難聴を呈する慢性中耳炎や耳硬化症に対する鼓室形成術やアブミ骨手術、高度感音難聴に対する人工内耳手術」の話を行いました。

休憩を挟みまして最後に当院の近隣であり、我々と同じ国家公務員共済組合である国家公務員共済組合連合会大手前病院の言語聴覚士である前山先生を招聘して補聴器について解説してもらいました。補聴器というのは百貨店や眼鏡屋などでも売っていたりすることがあるのですが、耳鼻科での補聴器適合や認定補聴器専門店での補聴器適合の重要性を解説してもらいました。当院でも毎週、補聴器業者に来てもらって耳鼻咽喉科外来で補聴器外来を行っているのですが、その宣伝もしてくれました。

これまでは演者のスライドを全てそのまま配付資料として配っておりましたが、（今回は院外からの二人の演者でしたので配付資料準備ができないという理由もありますが、）これでは多量のコピー

が必要で、事務方の資料準備も大変ですし紙の無駄になります。今回からはアウトラインや Take-home Message のみをA4両面1枚に集約して印刷しました。今回は私以外は2名も院外から招聘したので、打ち合わせ会も数回行い、十分な発表の準備を行いセミナーに臨みましたが、なかなか

いい話の流れで、聴衆の皆さんの興味を惹く話題で発表できて良かったです。

最後に本セミナーの準備を手伝ってくれた地域連携室事務員の安東君をはじめ、当日、会場の設営や受付をしていただいた医事課のスタッフに感謝します。



リボンズハウスで「涙活」してきました



国立病院機構 大阪医療センター 乳腺外科 八十島 宏行

10月6日（日）に当院災害医療棟でリボンズハウスが開催されました。リボンズハウスは「癌治療と生活」をつなぐことを目的に当院で毎年開催していますが……



今年のテーマは「涙活」。「涙活」とは聞き慣れない言葉ですが、人の気持ちに寄り添う涙は自分の気持ちをクリアにしてくれるという効能（心のデトックス）から、涙活講師橋本昌人さんとシャンソン歌手山口ひとみさんをお迎えして、心感じる手紙の朗読と胸の奥深くまで染み渡る歌を聞いてきました。会場は約100名の方々に来ていただき、ハンカチで涙を拭う姿や、鼻をすする音も所々から聞こえていました。

前半の手紙の朗読は橋本さんのトークや手紙の内容も、笑いと感動で終始涙々という湿っぽい感じでもありませんでしたし、山口さんの歌唱力はもちろん選曲が非常によく、歌を聴きながら自分も途中から風邪をひいているかのごとく涙と鼻水が流れ落ちていました。イベント終了後には会場外で橋本さんや山口さんに来場者の方々が感動と感謝の気持ちを伝え、写真撮影している光景をみて、今回のイベントが充実したものであったと実感しました。また自分にとっても心の掃除をすることができました。このようなリボンズハウスをメンバーの一員として今後もやっていきたいと感じました。



今回リボンズハウスの企画の段階から関わっていただいた事務の小林良平前班長がかなりご尽力してくださいました。広告作成から地下鉄の支柱への広告貼り、院内でもすさまじいほどの広告、患者会へのダイレクトメールなどアナウンスを徹底してくれたことが今回の成功にもつながったと非常にうれしく思います（涙）。この場をお借りして感謝申し上げます。



脳卒中市民公開講座「知ってはる?脳卒中! ～ならへんためにどうするん?なってしもたらどないする?～」

共催：大阪脳卒中医療連携ネットワーク（OSN）
第6回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会
日本脳卒中協会

企画課 業務班長 宮澤 純一

10月27日（日）に脳卒中市民公開講座「知ってはる?脳卒中!」が開催されましたのでご報告いたします。

大阪脳卒中医療連携ネットワーク（OSN）は、大阪市域および周辺地域の脳卒中医療に関わる医療機関が参加し、地域の脳卒中医療の発展に寄与することを目的に活動しています（2019年度時点で92医療機関）。2008年度から脳卒中連携パスの運用などから活動を開始、昨年度に発足10周年記念イベントが開催され、今年は2回目です。開催場所の選定にあたり、交通機関のアクセスが良く大規模な会場を持つ当院での開催が決まりました。開催にあたってはOSN事務局に山上、医療福祉相談室、事務が加わる形で準備を行って参りました。

当日のご報告です。

是恒院長の開催ご挨拶があり、イベントがスタートしました。



第一部 講演会

- 13:10 脳卒中にならへんために 中山クリニック 院長 中山先生
- 13:25 脳卒中になってもたら (独)国立病院機構大阪医療センター 脳卒中内科科長 山上先生
- 13:40 脳卒中の後遺症はどうする? 森之宮病院 副理事長 宮井先生

「脳卒中にならないためにはどうするか、なってしまったらどうするか」予防、急性期治療、リハビリテーションそれぞれの観点からご講演いただきました。



会場は隅々まで埋め尽くされ、皆さんが熱心に講演を聴かれていました。

第二部 相談コーナー・体験コーナー

○相談コーナー

医師、管理栄養士、認定看護師、薬剤師が参加者からの相談にあたりました。



○体験コーナー

1) カテーテル治療体験

脳卒中内科と脳神経外科の先生が参加者の方に直接指導されながら、模擬血栓の回収や、動脈瘤モデルのコイル塞栓などを行いました。参加者の方も熱心に操作をされていました。



2) 片麻痺体験

参加者の方は片麻痺体験スーツを身に付け、理学療法士、作業療法士の指導のもと、歩く、座るなどの体験をされました。



3) とろみ付飲料体験

自動とろみつけ機能付き自動販売機を扱っている（株）アペックスが、最新の「とろみ自動調理サーバー」を展示。お茶、牛乳など様々な飲料をとろみ付きにしていました。ちなみに私はとろみ付きファンタを試飲しました、とても爽やかで新鮮な味でした！（株）アペックスの営業担当によると、とろみのつけにくいエンシュアリキッドもこの機械なら自然なとろみにできる、とのことでした。



第三部 脳卒中体験談

そして大トリは、オール阪神さんをお迎えしての特別講演会です。阪神さんは、当日はなんばグランド花月で公演を3本持たれており、2本目と3本目の間にわざわざ当院までお越しくださいました。



阪神さんは「箸を落とす」「タバコを落とす」「お金を数えていて、途中で分からなくなる」などのエピソードを交えながら、ご自身の体験を語ってくれました。「クルマにポピ〜♪」も生で聞けました!! (分からない方すみません…)。それにしても、失礼かもしれませんが、やはりプロ！マイクひとつで、会場全体をあれだけ何度も何度も笑わせてくれたのですから。

予定していた30分を越えて大いに盛り上げてくれました。会場の皆さんも、スタッフも含め、全員がとても楽しく素敵な時間を過ごすことができました。

運営に当たりましては、受け付け方法など一部に課題等もあり、反省点もございました。ただ昨年度の参加者数を大きく上回る232名が参加され、スタッフも加えると300名規模のイベントとなりました。参加されていた皆さまの楽しんでおられる姿を見て、開催できてよかった、とスタッフ一同感じているところであります。事前、および当日の準備に当たられました職員の方々、また大阪脳卒中医療連携ネットワーク（OSN）スタッフで参加されました皆さま、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

共催：
大阪脳卒中医療連携ネットワーク（OSN）
第6回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会
日本脳卒中協会

知ってはる？脳卒中！
~ならへんためにどうするん？ なってしまたうとないする？~

会場：国立病院機構大阪医療センター 災害医療棟
2019年10月27日（日）
13:00~16:00
(12:30開場)

事前予約制
先着300名
参加無料

講演会 13:00~14:00
司会：大阪府立総合医療センター 脳血管内治療科 副部長 石黒友也
開会挨拶：国立病院機構大阪医療センター 院長 是権之宏
ならへんために（予防）：中山クリニック 院長 中山博文
なったら（救急治療）：国立病院機構大阪医療センター 脳卒中内科 科長 山上 宏
後遺症はどうする（リハビリ）：森之宮病院 副理事長 宮井一部

相談コーナー 14:00~15:30
脳卒中後の生活、栄養、お薬などに関する相談

体験コーナー 14:00~15:30
カテーテル治療体験、片麻痺体験、動画上映

脳卒中経験談 15:30~16:00

オール阪神さん
阪神師匠が語る
脳卒中ってこんなんやで！
YOSHIMOTO KOGYO CO.,LTD.

会場案内
ACCESS MAP 病棟へのアクセス

お問い合わせ先
国立病院機構大阪医療センター
担当 地域医療連携係長
06-6942-1331 (代表)
*お申し込み方法は裏面をご確認ください

当日は開催風景を撮影しますので、あらかじめご了承くださいませようお願いいたします。また、オール阪神様の撮影はご遠慮ください。





国立病院機構

大阪医療センター脳卒中センター

Stroke Center, National Hospital Organization Osaka National Hospital

国立病院機構大阪医療センターの脳卒中センターでは、下記のような患者さんを積極的に受け入れています。救急搬送・ご紹介をよろしくお願いいたします。

- 急性期脳梗塞：tPA静注療法・血栓回収療法が24時間365日体制で対応可能
- 原因不明の脳卒中：徹底した原因精査と適切な再発予防治療
- 頸動脈・頭蓋内動脈狭窄症：外科・血管内・内科治療による脳梗塞予防
- くも膜下出血：開頭クリッピング術や血管内治療に常時対応
- 未破裂脳動脈瘤：外科・血管内治療によるくも膜下出血の予防
- その他、脳卒中全般に関するご相談



脳神経外科科長 藤中俊之



脳卒中内科科長 山上 宏

脳卒中ホットライン (24時間対応)

06-6946-3543

地域医療連携室

(土・日・祝祭日・年末年始を除く、8:30～17:15)

TEL : 06-6946-3516 (直通)

FAX : 06-6946-3517 (直通)

急性心筋梗塞で 入院した人の約半数は、 発症前に不安定狭心症の 症状を認めます

◆ 不安定狭心症の段階で治療すれば、
より安全に治療できます

◆ もし急性心筋梗塞になってしまえば、
一刻も早く治療することが命を落とさない
ために重要です

今までに経験のない胸痛や胸部
圧迫感が、断続的に繰り返したり、
20分以上持続する場合には、緊
急で救急外来・循環器科を受診し
ましょう

国立病院機構 大阪医療センター
循環器内科ホットライン TEL 06-6946-3544

大阪医療センター

がん相談支援センター

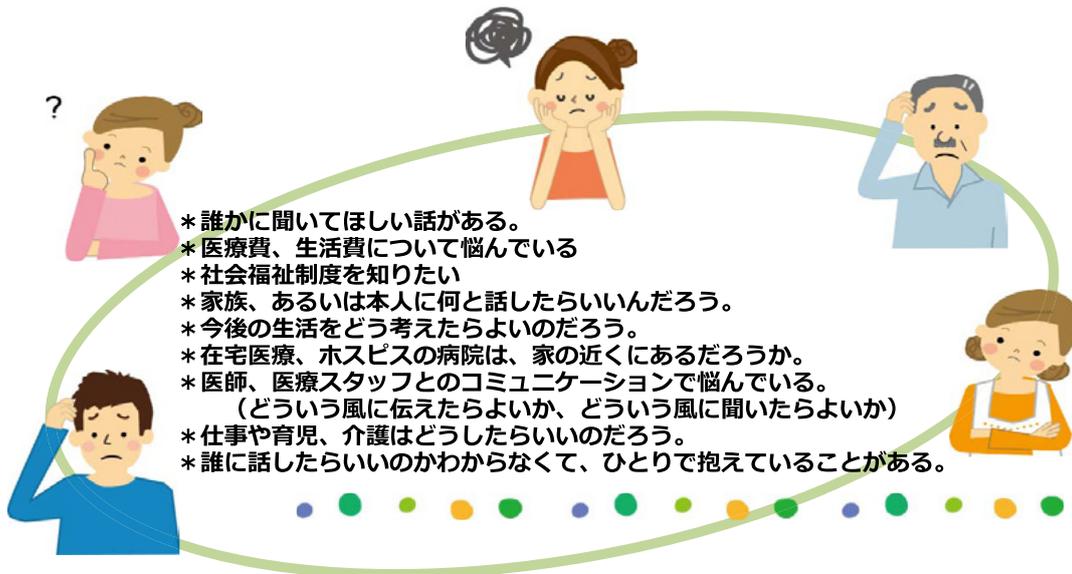
のご案内



患者さん・ご家族の皆さまが、治療を受けながら考えておられること、生活の中で抱えておられるお気持ち、などお話を聞かせていただくことにより、悩みやお気持ちの整理をお手伝いし、解決の糸口を一緒に考えます。
お気軽にご利用ください。

相談料は無料で、相談内容における個人情報厳守いたします。

* ご入院中の方は、ご希望により、病室までお伺いいたします。



相談にあたっては、患者さんやご家族のお考えやお気持ちを尊重し、できるだけみなさまご自身で問題の解決を図れるよう支援をいたします。

■ 大阪医療センター・がん相談支援センター ■

☎ 06-6942-1331 (代表)

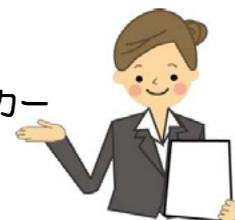
[月曜日～金曜日] 9:00～16:00

外来休診日はお休みです

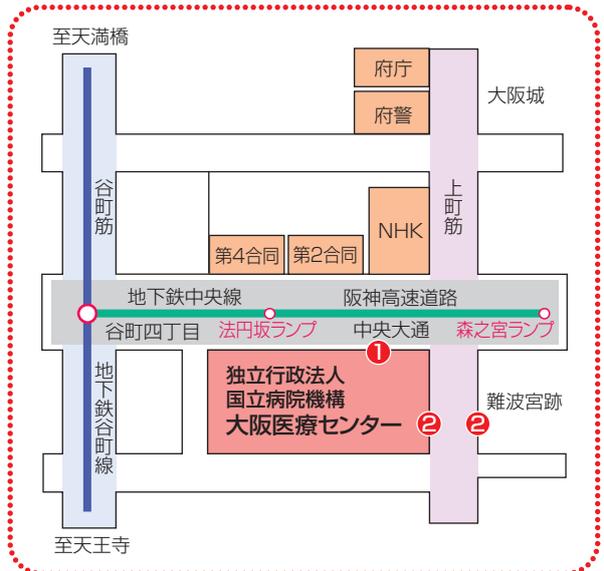
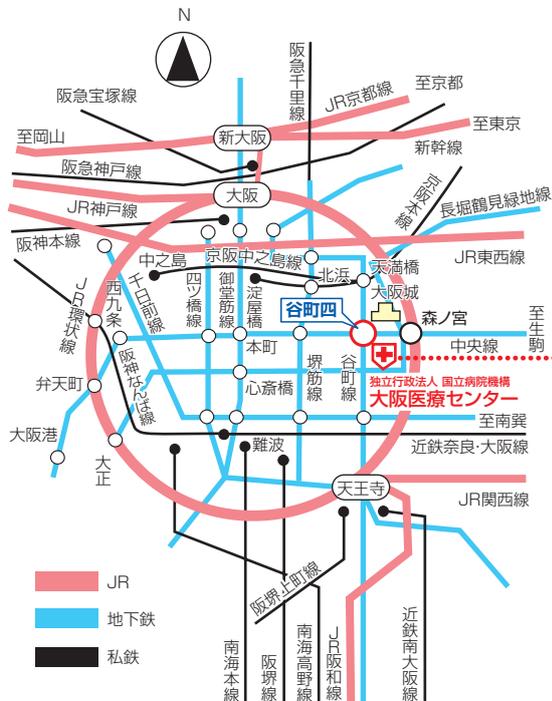
相談対応：看護師・医療ソーシャルワーカー



がん看護相談も
やってます



交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え
「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バ ス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。